

調査票丙（大学等）における研究補助者等のF T E把握について

1 課題内容

大学等における研究関係従業者のうち、「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」について、F T Eベースによる把握の要望がなされたもの。

2 前回の議論とヒアリングに向けた検討

- ・ヒアリングでは、現状、報告者がどの区分にどのような人が該当していると判断しているのか確認すると良い。
- ・現状の把握については、文部科学省としても協力して行ないたい。
→「研究補助者」「技能者」「研究事務その他の関係者」にどのような職名の方が含まれているか、各区分への回答に当たり判断に迷う区分があるかを確認するヒアリング項目を文部科学省と調整の上、追加。

3 ヒアリング結果

大学等（22 客体）に対してヒアリングを実施。

ヒアリング結果は別紙1のとおり。

4 ヒアリング結果を踏まえた事務局案

ヒアリングの結果、研究関係従業者が実際に研究関係業務に従事した割合を「回答可能」とした割合は3割にも満たない。また、回答が困難とする理由からも、回答可能性を高める事は難しく、基幹統計としての結果の正確性の確保は困難であると考えられる。したがって、研究関係従業者が実際に研究関係業務に従事した割合を把握するための項目の追加は見送ることとしたい。

調査票丙（大学等）における研究補助者等のF T E把握に関するヒアリング結果

大学等（22 客体）に対してヒアリングを実施した結果は以下のとおり。

問1 実際に研究関係業務に従事した割合の回答可能性

	客体数	回答可能	回答は難しい
大学等	21	5 23.8%	16 76.2%

問2 調査票記入担当者が実際に研究関係業務に従事した割合を把握しているか。
(問1で「回答可能」と回答した5 客体)

	客体数	把握している	把握していない
大学等	5	3 60.0%	2 40.0%

問2 更問 調査票記入担当者が実際に研究関係業務に従事した割合をどのように把握する予定か。
(問2で「把握していない」と回答した2 客体)

【回答】

- ・実際に研究関係業務に従事した割合は把握していないが、「研究補助者」「技能者」「研究事務その他の関係者」それぞれの職務内容から機械的に判断し、あん分する予定。
(国立大学)
- ・対象者より自己申告による概算割合に基づき集計する方法であれば対応可能かと考えています。ただし、厳密なエフォート管理を求められる対応（すべての勤務日の実際の勤務状況報告による集計や、GPS・ゲート管理による位置情報等に基づく集計）については手間やコストの面から困難だと思われます。(国立大学)

問3 実際に研究関係業務に従事した割合の回答が難しい理由
(問1で「回答は難しい」と回答した16 客体)

【主な回答】

- ・研究関係業務に従事した実時間を把握していない。また、研究関係業務に従事した時間とそれ以外の業務に従事した時間の切り分けが困難。(国立大学)
- ・研究関係業務に従事した時間について、個人単位での把握が難しく、組織単位でも労働契約書や勤務状況報告書からは見積りが難しい。(国立大学)
- ・「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」それぞれの「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合」を算出するには対象人数が多く、1 週間の中でも曜日によって勤務時間が変化するものが者も少なからず所属しており、その者それぞれに研究に従事した時間を聞き取り、割合を計算・回答することは困難。(国立大学)
- ・本学では対象者における研究関係業務に従事した時間を把握していない。(私立大学)

- ・実際、研究関係業務に従事した時間の割合など、年度全体を通して把握するのは困難。(私立大学)
- ・本学では職務規程等で研究活動と教育活動の業務の割合がはっきり示されていないため回答は難しい。(私立大学)
- ・各研究関係業務に割いた時間に関する客観的内訳データは保有しておらず、把握には本人や管理職に問い合わせるなど主観的かつ非常に煩雑で時間がかかる作業を要し、回答は困難を極める。(大学共同利用機関法人)
- ・業務従事割合については回答部署では把握していないため、対象者本人に確認依頼を行う必要があるが、対象が500人以上になり、取りまとめにかなりの時間を要し、事務が煩雑になる。(大学共同利用機関法人)

問4 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」にどのような者を含めているか、判断に迷った事例など。

【各区分にどのような者を含めているか】

区分	該当する職名	
	国公立大学	私立大学
研究補助者	テクニカルスタッフ、研究補助員、研究支援者、研究支援推進員、技術補佐員、技能補佐員、産学官連携技術者、産学官連携研究員、科学技術振興技術者、非常勤研究員、非常勤支援研究員	RA、助手
技能者	技術職員、技術補佐員、技術専門職、技術専門職員、技術専門員、研究技術員、研究補佐員、学術研究員、パート技術職員	技術職員、技術指導員、指導員、教育技術員、研究職員、技能職員(工作員)
研究事務その他の関係者	事務補佐員、事務職員、事務長、事務系職員、リサーチ・アドミニストレーター、研究推進課事務職員、研究推進課事務補佐員、産学・地域連携課事務職員、産学・地域連携課事務補佐員、主査、主任、係長、係員、主事、技術補佐員、特任専門員、パート事務職員、パート労務職員、業務士	研究協力事務、事務職員、非常勤助手、パートタイマー、嘱託職員(事務職員、業務嘱託)

【判断に迷った客体数】

	客体数	迷いなし	迷いあり
大学等	21	16 76.2%	5 23.8%

【判断に迷った事例】

○研究補助者

回答客体	該当する職名	職務内容	判断に迷った区分
国立大学	技術補佐員	技術に関する補佐業務	技能者
国立大学	研究支援者	所属研究グループにおける資料収集等の研究補助, 研究者の庶務・経理補助業務	研究者 研究事務その他の関係者
	技術補佐員	所属研究グループにおける特定技術提供, 庶務・経理補助業務	技能者 研究事務その他の関係者
	産学官連携技術者	所属研究グループにおける対外活動補助業務, 庶務・経理補助業務	研究者 研究事務その他の関係者
	科学技術振興技術者	所属研究グループにおける対外活動補助業務, 庶務・経理補助業務	研究者 研究事務その他の関係者
私立大学	助手	—	研究事務その他の関係者

○技能者

回答客体	該当する職名	職務内容	判断に迷った区分
国立大学	技術職員	技術に関する業務	研究補助者
	技術補佐員	技術に関する業務	研究補助者
	研究技術員	受託研究事業等のプロジェクトに係る高度の知識、経験及び高度の専門的技術を必要とする研究の技術業務	研究補助者
国立大学	技術職員	センターの管理・運営、研究に使用する船舶の操縦・管理	研究事務その他の関係者

○研究事務その他の関係者

迷った事例なし。

ヒアリング帳票

【研究補助者、技能者、研究事務その他の関係者について】

問1 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」について、現在ご回答いただいている「実数」に加え、新たに「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」を把握することを考えています。それぞれ、以下に記載のとおり回答していただくこととなりますが、回答が可能かお聞かせください。

また、今回の変更に伴い、「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務する場合の「研究事務その他の関係者」と「研究以外の業務に従事する従業者」への回答方法も変更となっております。こちらの変更も考慮し、回答の可能性をお聞かせください。

(回答を○で囲んで下さい。)

【現行の調査票】

	実数		
		うち女性	
研究関係従業者数の合計	人	人	
研究者	本務者	人	人
	教員	人	人
	大学院博士課程の在籍者	人	人
	医局員	人	人
	その他の研究員	人	人
	兼務者（学外からの研究者）	人	人
研究補助者	人	人	
技能者	人	人	
研究事務その他の関係者	人	人	
本務者のうち博士号取得者	人	人	
任期無し研究者	人	人	
うち40歳未満	人	人	
研究以外の業務に従事する従業者	人		

【変更案】

	実数		実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値	
		うち女性		
研究関係従業者数の合計	人	人	—	
研究者	本務者	人	人	—
	教員	人	人	—
	大学院博士課程の在籍者	人	人	—
	医局員	人	人	—
	その他の研究員	人	人	—
	兼務者（学外からの研究者）	人	人	—
研究補助者	人	人	人	
技能者	人	人	人	
研究事務その他の関係者	人	人	人	
本務者のうち博士号取得者	人	人		
任期無し研究者	人	人		
うち40歳未満	人	人		
研究以外の業務に従事する従業者	人			

「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」の記入方法

- ・「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」は「実数」に、業務のうち研究関係業務に従事した時間の割合を乗じた人数を記入してください。
- ・「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」の記入に当たって、研究関係業務に従事した時間が個人単位で把握出来ない場合は、組織の単位ごとの見積りにより計算してください。
あん分比率が実数に対して 100%の場合も実数と同じ値を必ず記入してください。
- ・週の特定期勤務の者、短時間勤務の者の「実際に研究関係業務に従事した割合」については、通常の勤務形態に対する割合も考慮して計算してください。
例えば、週5日8時間勤務を通常の勤務形態とする場合、週4日4時間勤務で研究関係業務に専念している研究補助者の「実際に研究関係業務に従事した割合」は、 $(4日 \times 4時間) \div (5日 \times 8時間) = 0.4$ としてください。

「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務する者の記入方法

- ・「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務する者は全て「研究事務その他の関係者」としてください。「研究以外の業務に従事する従業者」に記入する者は、一切「研究業務」に関わらない者となります。

調査票記入イメージ

	実数		実際に研究関係業務 に従事した割合で あん分した値	
		うち女性		
研究関係従業者数の合計	人	人	—	
研究者	本務者	人	人	—
	教員	人	人	—
	大学院博士課程の在籍者	人	人	—
	医局員	人	人	—
	その他の研究員	人	人	—
	兼務者（学外からの研究者）	人	人	—
研究補助者	2人	人	1人	
技能者	3人	人	0人	
研究事務その他の関係者	15人	人	12人	

本務者のうち博士号取得者	人	人
--------------	---	---

任期無し研究者	人	人
うち40歳未満	人	人

研究以外の業務に従事する従業者	13人
-----------------	-----

業務のうち研究関係業務に従事した時間の割合に相当する人数を記入します。

例えば、研究補助者が2人いて、実際に研究関係業務に従事した時間の割合をみると、1人が6割で、他の1人が4割の場合は、 $(1人 \times 0.6) + (1人 \times 0.4) = 1人$ と記入します。

技能者が3人いて、実際に研究関係業務に従事した時間をみると、1人が2割で、他の2人が1割の場合は、 $(1人 \times 0.2) + (2人 \times 0.1) = 0.4 \div 0人$ と記入します。

※ 四捨五入した数値が0になった場合は0を記入します。

「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務している者については、一律「研究事務その他の関係者」として記入し、業務のうち研究関係業務に従事した時間の割合に相当する人数を「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」として記入します。

例えば、学部事務局に庶務・経理関係の職員が28人いて、5人は研究室に關係する事務の処理に従事、13人は研究室とは關係ない事務の処理に従事、10人はおおむね勤務時間の7割程度を研究室に關係する事務の処理にあてている場合。

5人+10人=15人→研究事務その他の関係者 15人

5人+ (10人×0.7) =12人→研究事務その他の関係者の実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値 12人

研究以外の業務に従事する従業者 13人

【回答】

1：「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は可能 ⇒ 問2へ

2：「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は難しい ⇒ 問3へ

問2 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」それぞれの「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は可能とのことですが、調査票記入担当者様において、「実際に研究関係業務に従事した割合」は把握しておりますでしょうか。（回答を○で囲んで下さい。）

【回答】

1：調査票記入担当者で「実際に研究関係業務に従事した割合」を把握している

2：調査票記入担当者で「実際に研究関係業務に従事した割合」を把握していない ⇒ **更問へ**

更問 調査票記入担当者様で「実際に研究関係業務に従事した割合」を把握していないとのことですが、調査票記入に当たって、どのように把握する予定かお聞かせください。

【回答】

問3 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」それぞれの「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は難しいとのことですが、理由をお聞かせください。

【回答】

問4 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」については、下記の定義でご回答をいただいておりますが、「回答に当たり判断に迷う事がある」とのご意見も寄せられています。

つきましては、従業者の各区分について、貴学ではどのような方を含めているか、**主な職名と職務内容**についてお聞かせください。

また、貴学におかれましても、どの区分に含めるべきか判断に迷う事例等ございましたら、候補となった区分とあわせてお聞かせ下さい。

従業者の区分	定義
研究補助者	研究者の指示に従い、資料収集、検査・測定、試験、記録、経常的観測作業などに従事して、研究者を補佐する者をいいます。 なお、大学院博士課程の在籍者が同一大学内でリサーチアシスタント等の研究者を補佐する業務を行っている場合については、「研究補助者」には記入せず、「大学院博士課程の在籍者」に記入してください。
技能者	研究活動に対して研究者又は研究補助者の指導・監督の下に専門的な技術サービスを提供することを職務とする者をいいます。検査・測定専門の技師、無菌動物の飼育に従事する者、試験用材料の作成・加工に従事する者などが該当します。
研究事務その他の関係者	庶務、経理、福利厚生、研究組織・施設を運用するために必要な関係者すべてをいい、運転や清掃、警備などの間接サービスを行う人は除きます。 また、特に専門的な技能・知識を要しない研究関係業務（例えば試験用農場の手入れなど）に従事する労務者もここに含まれます。

【回答】

【研究補助者】						
職名	職務内容	判断に迷った区分（注）				
		研	補	技	他	外
			/			
			/			
			/			
			/			
			/			

【技能者】						
職名	職務内容	判断に迷った区分（注）				
		研	補	技	他	外
				/		
				/		
				/		
				/		
				/		

【研究事務その他の関係者】						
職名	職務内容	判断に迷った区分（注）				
		研	補	技	他	外
					/	
					/	
					/	
					/	
					/	

(注) 左記の職名の方について、他に判断に迷った区分がありましたら、該当する区分に「○」を入力してください。なお、各区分の対応は次のとおりです。(特に迷った区分がなければ、空欄のままとしてください。)

- 「研」…研究者、「補」…研究補助者、「技」…技能者、「他」…研究事務その他の関係者、
- 「外」…研究以外の業務に従事する従業者